



令和2年10月4日(日)、総合教育センターにおいて、午前中にチャレンジコースの受講者対象(オープンコースも聴講可)の特別講座2を実施しました。今回は、各講座の内容を概要としてまとめてみました。概要のポイントは、「講師が伝えたかったこと」を端的に表現することはもちろんのこと、講座を受講していない人にも、内容が分かるようにまとめることです。

小学校「小学校における授業づくり」

授業づくりにあたっては、教材の本質を掴むとともに、子どもの姿(実態)から考えることが欠かせない。

また、生活の中で教材として活用できる材料を探すことや、同僚と教材研究をするなど、様々な方法を駆使して教材に対する理解と思いを深めることも重要である。

これらの工夫をしながら、「教員自らがよき手本となって子どもの声を進んで聴き、互いの考えを聴き合う授業づくりを行うこと」、そして「子どもと子どもを結び、学び合う関係づくりをしていくこと」で、授業を通してどの子も輝ける学級づくりをしていくことができる。



茅ヶ崎市立松浪小学校
濱田 淳志 教諭

特別支援学校「自立活動教諭(専門職)との協働」

神奈川県では、PT・OT・ST・心理職の四つの専門職が自立活動教諭として勤務している。医師の指示のもと、限られた時間、場所に関わる医療機関の専門職と違い、学校生活の中で日常的、連続的に関わることのできる特別支援学校の専門職は、担任と共にチーム全体で子どもを支援している。特別支援学校の担任は、各専門職の専門性を理解しながら、子どもの生活がより良いものとなるように、積極的に専門職を活用していかなければならない。



県立麻生養護学校
芝崎 律子 自立活動教諭

中学校英語又は高等学校英語 「英語によるコミュニケーションスキル」

授業を行う上で、「何を学ばせるか」を焦点化することや、「授業のシナリオをどのように組んでいくか」を考えることが大切である。言語は他者とのやりとりを通して、また「根性を入れて」、さらに content(内容・トピック)を学ぶことを通して習得される。教員はうなずく・笑顔・ほめるといった雰囲気づくりをしながら、相手に分かるように話したり、相手の話に興味を持ちながら正確に理解したりする習慣を生徒につけさせることが大切である。本文理解においては事実と意見を分けて言わせたり、科学的リサーチにより課題を設定したりすることが重要である。また、授業を進めるための表現のリストやネタ帳を作成することも有効である。



県立国際言語文化アカデミア
江原 美明 教授